小規模校・少人数学級における指導の充実

～小規模・少人数の利点を生かして～

「共育」クローバープラン

長野県教育委員会

小規模校・少人数学級で
本当にやっていけるか不安です…。

学級経営や教科指導、地域に根ざした教育活動の計画など、赴任するにあたり不安を抱えることもあるかもしれません。

しかし、小規模校・少人数学級だからこそできる学習活動、地域と連携した行事など、教師としてのやりがいを感じられることがたくさんあります。

小規模・少人数だからこそ！！

〇様々な活動や行事に新たな試みを
〇教師としてのあり方の見つめ直しを

様々な活動や行事に新たな試みを

職員数が少ないため、複数の校務分掌で主任を任されることもあります。一人で多くの役割を果たすことは大変かもしれません。しかし、企画や運営の中心となり、周囲の協力を得ながら一つのものをつくりあげることは、大変やりがいのある仕事ですし、「見通しをもつ」、「他者と連携する」、「見直し改善する」等、教師としての大切な力を養うことにもつながります。

新たな提案を積極的に

同僚と素早く連絡・相談ができるので、自分らしい発想を生かした新たな提案も実現しやすいはずです。

例えば、運動会の入場行進の仕方を変える、文化祭に新たな発表の場を設けるなど、新たな試みを一つ行うことで、様々な可能性が見えてきます。

入場行進一つから　新たな提案を

地域とつながる第一歩　「お願いできますか」

地域と連携したいと思っていても、最初の一歩が踏み出せないでいるかもしれません。しかし、子どもたちのために親身になって動いてくださる地域の方はたくさんいます。

電話１本で動いてくださる地域の方との関係も、「〇〇したいので、お願いできますか」の一言から始まります。

一言から始まる　地域との連携

（地域連携の具体は「地域連携編」へ）

教師としてのあり方の見つめ直しを

教師は大きな学習環境の一つ

教師は、子どもにとって大きな学習環境の一つです。少人数学級では、教師の影響力の大きさや責任を感じる場面も多いと思います。

しかし、こうした環境は、教師としてのライフステージの中で、「子どもをよく見る」「専門性を高める」等、「教師の原点」ともいえる力を高めるために適した環境ともいえます。

（子ども理解の具体は「学習環境編」へ、授業については「授業編」へ）

一人で悩まないで

一人教科会や一人学年会といった状況から、教科指導、学級経営などについて悩むこともあると思います。同僚の先生へ相談したり、各種研修に参加したりしてみましょう。

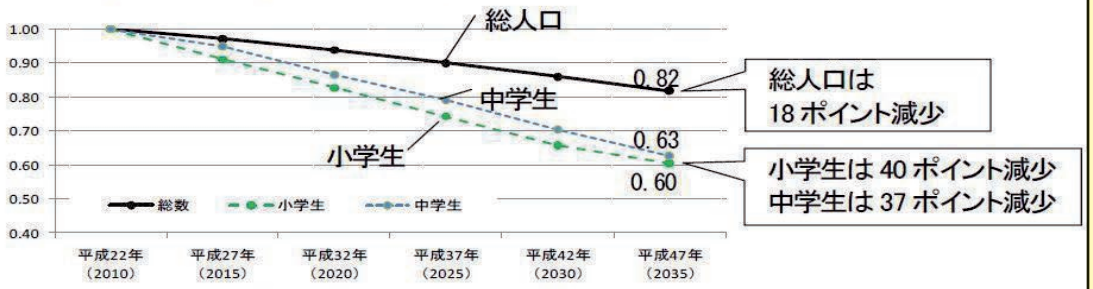
（具体は「職員編」へ）

少子・人口減少にかかわる現状と予測

○小・中学生は 20 年後に約６割に減少

・小・中学生は総人口を上回り急速に減少する見込み。

【平成 22 年を基準とした長野県の人口推移率】



資料:国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成 25 年3 月推計)」

○小学校の３校に１校、中学校の５校に１校が単級以下

・学校の小規模化に伴う課題が顕在化。

県内公立小中学校　学級数別学校数（平成 25 年度）

学級数	6以下	7～12	13～18	19～24	25以上	計
小学校（構成比%）	137 (36.9)	108 (29.1)	58 (15.6)	52 (14.0)	16 (4.3)	371 (100.0)

学級数	3以下	4～6	7～12	13～18	19～24	25以上	計
中学校（構成比%）	40 (21.2)	21 (11.1)	60 (31.7)	49 (25.9)	18 (9.5)	1 (0.5)	189 (100.0)

「少子・人口減少社会に対応した活力ある学校環境のあり方及び支援方策」
長野県教育委員会事務局義務教育課　より
URL：http://www.pref.nagano.lg.jp/kyoiku/gimukyo/goannai/soshiki/syosi2506.html

県内の小・中学校において、学校の小規模化が進んでいます。また、小・中学生の人口が急速に減少するとの推計もあります。将来的な学校、学級規模の縮小化も見据え、小規模校・少人数学級における教育活動、学習指導のあり方等について考えていく必要があります。

「人間関係の固定化」が気になるのですが…。

「少ない人数で、小さい頃からずっと同じ仲間で育ってきたから、人間関係が固定化してしまい…」ということをよく耳にします。

しかし、「それって本当？」なのでしょうか。固定概念にとらわれず、改めて自分の指導を振り返ることで、少人数学級における指導のポイントが見えてきます。

小規模・少人数だからこそ！！

〇教師自身が、「子どもへの見方を固定化しない」心構えと工夫を

〇子どもが、「友だちへの見方を固定化しない」工夫を

教師自身が、「子どもへの見方を固定化しない」心構えと工夫を

「この子は、こういう子だから」と固定的な見方をしてしまうことはないでしょうか。一人一人の子どもと「しっかりかかわることができる」環境を生かしましょう。そして、教師自身が、常に子どもの「新たな姿」を見いだそうという姿勢をもちましょう。

定期的な面談、学習カード・日記から「新たな姿」を

〇１ヶ月１回など、定期的に面談を設定する

・ちょっとした表情等の変化、つぶやきを見逃さない

〇学習カードや日記から「新たな姿」を見いだす

・学習カードや日記への返事と記録（学級通信等）

そんなふうに考えられるようになったんだね

子どもの悩みや喜びを共感的に受け止め、小さな変化や成長を「新たな姿」としてとらえようとする姿勢が、確かな子ども理解につながります。

授業や諸活動での子どもの様子を共有する

専科教員、教科担任など担任以外の立場からとらえた子どもの「新たな姿」を、担任に伝えたり職員同士で語り合ったりすることで、子どもの見方が広がります。

子どもの「新たな姿」は、日常のつぶやきや学習カード、日記の中にたくさん詰まっています。

教師自身が、
子どもを「わかったつもり」
**　ならないようにしましょう。**

子どもが、「友だちへの見方を固定化しない」工夫を

小規模校・少人数学級であっても、子どもは、日々成長するお互いのことをよく理解しているとは限りません。長い共同生活の中で、子ども同士が、お互いを「わかったつもり」になっていることもあるのではないでしょうか。子ども同士の「わかったつもり」を常に問い返し、互いの「新たな姿」を意識させていく働きかけをしましょう。

学級通信等で「新たな姿」の発信を

子どもの言葉をたくさん載せた学級通信で、互いに「新たな姿」を発見できる場をつくりましょう。

また、短学活で、学級通信について話し合ったり、その感想を次号に載せるリレー形式の学級通信にしたりすることで、さらに相互理解が深まります。

こんな一面もあったんだね

クラスの歴史・個人の「今」がわかる掲示物を

お互い　変わったね　成長したね

小さい頃から一緒でも、友の知らない面もたくさんあるはずです。クラスの歴史や個人の「今」がわかるように工夫した掲示物で、相互理解を深め、学級に一体感が生まれるようにしましょう。

子どもを
「お互いにわかったつもり」にさせないようにしましょう。

子どもを「よく見る」とは

猪切（いぎり）　洋二（ようじ）　先生　【飯田市立遠山中学校（１学級 10～15 名）に勤務】

遠山中に勤めていた時には、生徒一人一人を「よく見る」ことを常に心がけていました。

小規模校では生徒数が少ないため、中・大規模校に比べて生徒一人一人を「よく見る」ことができます。生徒を「よく見る」ことで、生徒一人一人への理解が深まり、「この生徒は、どのような事柄を、どこまで自分の力で取り組むことができるか」ということについての見通し、つまり「指導の方向性」を得ることができました。

教師としてもっとも大切なスタンスを、小規模校で出会った生徒一人一人が私に教えてくれました。感謝なしには語れない、私自身の学びであったと思います。

教科書にあるような素材や教材が なかなか整わないのですが…。

「商店街の学習をしようと考えて行ってみたら、教科書通りにはなっていなくて…」こうした悩みをもちながら、ついつい教科書等の資料を使っただけで、身近な素材や施設を生かすことなく授業を進めがちではないでしょうか。しかし、求めている「ひと」「もの」「こと」は、意外とすぐそばにあるものです。

小規模・少人数だからこそ！！

〇教科等のねらいを窓口に、地域にある素材の掘り起こしを
〇子どもが体験から学ぶ授業づくりの工夫を

教科等のねらいを窓口に、地域にある素材の掘り起こしを

身近な地域のことを知る

商店に行ってみたら、新鮮で立派なブリが売られていました。これを見た子どもたちは、どんな問いをもつでしょうか。近隣に商店街や大型店がなくても、小学校社会科の「仕事に携わっている人々の工夫を考える」というねらいに基づく学習が展開できそうです。このように、学習のねらいを窓口として地域を歩いてみましょう。地域にあるものが学習素材として見えてきます。

どうやって鮮度を保つのかな？

地域の特色や工夫を考える

「だれが運ぶのだろう？」「どうやって鮮度を保つのかな？」「どんな売り方をするのだろう？」などの問いが生まれそうです。問いに対する予想をもち、取材する内容がはっきりしたら、すぐに商店へ出かけたり、何度も足を運んだりできる利点を生かした学習を構想しましょう。地域の方から聞き取った内容には、自ずと地域の特色や工夫があるはずです。

地域の素材と教科書にある教材との関係を考える

身近な地域の素材について調べたら、教科書や資料で他の地域の大型店や商店街と比べ、子どもたちの視野を広げられる学習を構想しましょう。こうすることで、子どもたちは、新たな発見をし、地域をより身近に感じていくことでしょう。

子どもが体験から学ぶ授業づくりの工夫を

少人数学級の場合、生活科や総合的な学習の時間で行われる栽培・飼育活動では、分業制ではなく全員が毎日、そしてすべてにかかわることができます。こうした活動の積み重ねにより、教科書だけでは味わえない学習となっていくのではないでしょうか。

私たちの大切なリンゴ

すべての過程を体験する学習に

例えば、リンゴ栽培の活動では、摘果・袋かけ・収穫・選別等といったすべての作業工程を、どの子どもも体験することができます。こうした体験から、作業の内容や意味を知り、対象を取り巻く人々の営みについて深く考えることができます。

毎日対象に働きかける学習に

朝の時間や休み時間を使って、リンゴの様子を見るために果樹園に向かう子どもたち。

一人一人が十分に作業を体験したり、毎日観察や世話をしたりすることができます。このように、毎日対象に働きかけ、対象のわずかな変化を敏感に感じることによって、自分としてのかけがえのない学びとなっていきます。

共通の体験を基に語り合う学習に

リンゴを大切に育てていく過程で、一人一人の中には成長の様子、色や形、そして味などへの感じ方の異なりが生じてきます。その異なりを生かして語り合う中で、対象に対する新たな気付きが生まれたり、友のよさを感じたりするようになるでしょう。このように、共通の体験を基に語り合うことは、仲間とのかけがえのない学びとなり、教科書だけでは感じられない、実感を伴った学習となっていきます。

身近にある環境を生かして

竹前（たけまえ）　研一（けんいち）　先生　　【売木村立売木小学校（１学級６名）等に勤務】

身近な周辺に探索に出かけると、同じ場所でも季節ごとに楽しさがあります。子どもたちとともに、身近に目を向け繰り返し足を運んでいくうちに、気が付けば、野や川と一体となっており、教科書だけでは味わえない学びをたくさん見いだしていることでしょう。

子どもの考えを深めさせたくても、うまくいかないのですが…。

「少人数だと考えを深めることができない」そんな思い込みはないでしょうか。人数が少ないからこそ、一人一人の子どもへの支援や手だてをじっくり考えることができます。このことによって、多様な意見や考えを交流できるような指導の可能性が広がります。

小規模・少人数だからこそ！！

〇共同追究での発表や教師の役割の工夫を
〇学年、学校・校種の枠を越えた活動の工夫を

共同追究での発表や教師の役割の工夫を

授業の中に、子どもが考えるところをつくりましょう。そこには、子どもの状況を踏まえ、時として「出る」、時として「出ない」教師の支援が求められます。

自分の考えを問い直す教室に

授業中、一人が何回も発言していく中で、だんだんとその子どもの考えがはっきりとしていくこともあります。だからこそ、発表の中で「変わってきているな」というところを見逃さない教師の助言が大切です。友の発言やつぶやきから、自分の考えを問い直す教室にしましょう。そのためにも、友の間違いから学び合う場づくりや、自分の考えの変化を語る場づくりを工夫しましょう。

教師も一人の学習者となって

多様な考えや思いがあまり出ない、見方や考え方があまり深まらない、さらっと流れてしまうというようなことはありませんか。このような時には、教師が一人の学習者として意見を出してみるのはどうでしょう。それまでになかった考えに触れた子どもは、自分の考えを見つめ直し、自分の考えを深めていきます。

時には先生も子どもになる

学年、学校・校種の枠を越えた活動の工夫を

集団での活動をさせたいと感じることがあります。迫力のある合奏、大人数でのサッカーなど、大人数の方が効果を感じられることも確かにあります。少人数規模の機動力を生かして、学年の枠、学校の枠を越えた工夫をしてみましょう。

学年の枠を越えて

小規模の小学校では連学年の活動を取り入れているところが多くあります。例えば、音楽会では４・５・６年生で合唱や合奏を発表したり、郡市の音楽会へ連学年で参加したりしている例があります。このような中で合唱をすることで、声の幅の広がりを感じ取ったり、迫力ある歌声を味わったりすることができます。

学校･校種の枠を越えて

小・中学校が併設の場合、合同で音楽会を行うことも多いです。堂々と歌う中学生の迫力のある混声の響きに魅了された小学生が一緒に歌い、豊かな合唱の響きを味わったという例もあります。

同じ中学校区の近隣校と合同で、社会見学や修学旅行、スキー教室等の行事や、総合的な学習の時間を行うこともよいでしょう。交流の中で新たな気付きが生まれます。また、仲間も増え、中学校への接続もスムーズになりそうです。

小学生と中学生とが触れ合って

ＩＣＴ機器を活用して

一人あたりの使用頻度が高い環境を生かす

タブレットＰＣやデジタルカメラなどの機器を用いて、１人１台の環境をつくりやすいので、課題別学習等での記録や調査、発表し合う活動等が充実します。

遠隔地の講師に実演してもらう

【必要機器：ＰＣ、Webカメラ、テレビ電話ソフト　プロジェクター、大容量回線、マイク】

校外学習が困難な場合、テレビ電話ソフトを用いれば、遠隔地と教室を結んで、専門家に質問をしたり、実演を交えて教えてもらったりすることができます。

ICT活用による学校間連携

【必要機器：ＰＣ、電子黒板、プロジェクター、テレビ電話ソフト、大容量回線、マイク】

テレビ会議システムを使い、他校の学級と連動した協働学習など、対話をしながら進める探究学習をすることが可能です。

※ＩＣＴ機器の活用事例は、長野県総合教育センターのホームページから閲覧できます。

子どもが受け身になりがち…
どうしたらよいでしょうか。

子どもが受け身になる？もしかしたら教師が受け身にさせてしまっていることはないでしょうか。いつも同じ子どもに指名せざるを得なかったり、一問一答になったりしていることはありませんか。じっくり自分や仲間と向き合って考えたり、意見を交流したりできるような指導の工夫をしていきましょう。

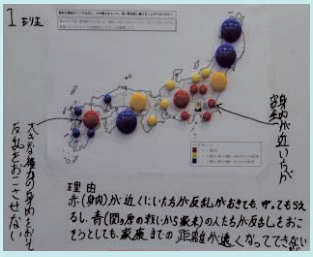
小規模・少人数だからこそ！！

〇一人の場とみんなの場をつくってめりはりを
〇見守りと見とどけを大切にした個に応じた支援を

一人の場とみんなの場をつくってめりはりを

一人になって考える時間をしっかりと設定する

自分の考えを深めるには、まず自分の考えをしっかりもてなければなりません。例えば、社会科で、ホワイトボードを一人一人に持たせ、「自分が徳川家康だったら、どのように大名を配置するか」といった問いに対し、マグネットを操作したり書き込んだりすることで、自分としての考えをもつ時間をとり、その考えを把握しておきましょう。



ホワイトボードに書き込む

子ども同士がつながる環境をつくる

授業中困った時に、「わからない」と言えるのは、少人数のよさです。学習を進める中で、どの資料を使うのか、どのようなことがわかったか等、考える視点や内容を明らかにし、意見交換しやすい環境をつくりましょう。また、席の位置について、個別の時間は広々と、ペアの時は向かい合わせ、みんなで考えるときは黒板に机を寄せるなど、位置を変える工夫もよいですね。

教室で広がって自分の考えをもつ

黒板に近付いて、みんなで考え合う

見守りと見とどけを大切にした個に応じた支援を

一人一人の子どもを把握する。そして見守る。

少人数の学級では個別ファイルや日々の授業の様子から、一人一人の学習状況を、より丁寧に把握することができます。また、授業の終末では、全員が意見や考えを発表できます。さらには、子どもの求めに応じて、先生が課題プリントを用意し、授業後に、ファイルにはさんで渡すこともできます。

また、一人一人のプリントにすべてナンバリングをし、蓄積させることで、子どもたちは、自分の取組に自信をもち、学習に前向きになるでしょう。

一人一人のファイルを丁寧に蓄積

時には“見て見ぬふり”をしながら、子どもの様子を見守りましょう。

見とどけを生かした保護者との連携を

一人一人の学習ファイルや家庭学習を基に学習状況を見とどけましょう。人数が少ないと短時間で家庭学習にも目を通すことができます。その上で、①その子にあった課題を出す、②学級通信で家庭学習の話題に触れ、授業のポイントやつまずきを発信する、といったことに努めましょう。

また、家庭と相談し、音読カードのようなチェック表の記録をお願いする等、保護者との連携を大切にしていきましょう。

一人の疑問をみんなの疑問へ

K先生は、「冬の寒さがとても厳しい北海道地方が、魅力的な都道府県にランキング１位になっているのはなぜか？」というＡさんの疑問を取り上げ、６名の生徒みんなで追究していくようにしました。６名の生徒はそれぞれに予想を立て、確かめるために図書館やインターネットを使って調べ学習を行い、終末の場面では、調べたことをまとめた付箋を基に考え、Ａさんの疑問をみんなで解決しました。

先生も生徒の学びの輪に入って

K先生は、生徒の輪に入って生徒と共に取り組み、子どもの考えを引き出す場づくりをしていました。「共に学ぶ」というK先生の姿勢が、生徒の主体的な学習を支えていました。

「地域との連携は大切だ！」というけれど…。

日々の忙しさから、地域との連携に戸惑いを感じたり、前向きになれなかったりすることがあるかもしれません。しかし、様々な教科・領域等で地域と連携して学習することは、地域のよさ、人とかかわることのよさを学び、地域を誇りに思う子どもたちを育てることにつながります。地域の方々の学校に寄せる思いを生かし、連携への一歩を踏み出しましょう。

小規模・少人数だからこそ！！

〇地域連携のよさを取り入れた学習を
〇教師も子どもも、思いついたらすぐ相談、実行を

地域連携のよさを取り入れた学習を

地域と連携することで、子どもはもちろん、教師、地域の方も、様々なよさを感じたり、見方や考え方を広げたりすることができます。

教師・学校

〇子どもたちと地域について学ぶために、進んで地域に出向くようになります。
〇地域の方の思いに触れ、その願いを基に教育活動を進めるようになります。
〇多くの人の目で子ども見つめ、新たな子どものよさを発見することができます。

子ども

〇地域のひと・もの・ことに触れ、地域への愛着、人への憧れ・信頼感を感じ、地域に誇りをもつことができます。
〇交流の場は、自分を表現する大切な機会となります。
〇学びの場が増え、見方や考え方に広がりが生まれます。

地域の方

〇やりがいや地域における自分の役割を果たせる喜びを感じることができます。
〇子どもは、地域の次代を担う地域の財産であるという見方が強まり、学校だけでなく、地域でも大切に育てていこうとする意識がさらに高まります。

上村を誇りに思う

山崎（やまざき）　美波（みなみ）さん（社会人）

【飯田市立上村小学校、旧上村中学校を卒業（学年単級　１学級３～５名）】

総合的な学習の時間に、地元・飯田市上村霜月祭りの歴史や携わる人たちからお話を直接聞く機会がありました。この学習を通して、「古くから続くお祭りを、自分たちも守り続けないと！」という気持ちをもつようになり、上村がさらに好きになり、愛着をもつようになりました。

小規模校ならではの学習を通して、私は、上村を誇りに思うようになりました。

教師も子どもも、思いついたらすぐ相談、実行を

K先生は、総合的な学習の時間で、N村のお年寄りの豊かな経験や深い知恵に触れ、地域に対する誇りを感じられるような授業をしたいという願いから、お年寄りとの交流を実現させました。授業後には、次のような感想が寄せられました。

生徒の感想

今日のお話は貴重でした。昔の生活は今と比べれば不便だけど、それが当たり前の環境の中で、中学生は家の手伝いをいっぱいしていました。昔の中学生はすごいと思ったし、家に帰ったら祖母にいろいろ聞いてみようと思いました。

地域の方の感想

とても楽しい時間を過ごすことができました。昔の日用品などを用意してくれたので、話しやすかったです。昔は当たり前だったことに、生徒さんたちが驚いたり、すごいと言ってくれたりして、年を重ねた価値があったなと実感しました。ありがとう。

こうした思いが生まれた背景には、K先生が生徒と共に地域に出て、いろいろ相談するなど、地域との連携を積極的に進める姿がありました。

生徒と共に支所に相談

生徒は、学習に参加してもらえそうなお年寄りを紹介してもらいました。また、昔の道具を用意して、子どもの頃を思い出しながら話してもらいたいという願いを伝えたところ、道具は村の博物館にあり、貸与が可能であることを教えてもらいました。

生徒と共に博物館に相談

生徒は、どのような道具を選べば、話がしやすく、昔の様子やお年寄りの知恵の深さがわかるのか、博物館の館長さんに相談しました。交流するお年寄りの顔を思い浮かべ、一人一人に合った道具を館長さんと選びました。

地域のお年寄りと交流をする

教師は綿密な打ち合わせ

K先生は、お年寄りと生徒が共に満足する交流活動にするために、参加されるお年寄りと綿密な打ち合わせをしました。この交流で目指す育ちは何か、そのためにお願いしたいことは何かを具体的に伝え、お年寄りの願いも聞きながら、計画を立てました。

学年も一人、教科会も一人。
一人でとても不安です…。

私たち教師は一人ではありません。勤務校には、私たちの成長や活躍を願って見守り、支えてくれている同僚がいます。また、少し視野を広げると、近くの学校には同じ不安を抱えている先生方がいて、出会いや学び合いを求めています。

小規模・少人数だからこそ！！

〇子ども全員のことをよく知っている同僚の先生方に相談を
〇合同学年会、教科会、研修会へ積極的に参加を

子ども全員のことをよく知っている同僚の先生方に相談を

職員室は、大切な情報交換の場所です。次のようなことを話題にしてはどうでしょうか。

子どものことを話題に

職員全員で子どもたちの成長を見守っている小規模校では、子どもの顔や名前、これまでの育ちをわかり合っています。子どもたちの姿を積極的に話題にすることで、自分の知らない子どものよさや対応のヒントを聞くことが可能です。

授業のことを話題に

どの先生方も少人数のよさを生かした授業の方法を、試行錯誤を繰り返しながら蓄えています。そんな実践の方法を聞くことで、授業づくりの参考になったり、新たなアイディアがひらめくきっかけになったりします。

心のティータイム！

放課後は、どこにいますか？教室や研究室などでの授業準備も大切ですが、職員室で仕事をしていると多くの先生と話す機会が自然に生まれます。地域のこと、自分の趣味や興味のあること、得意なこと、ちょっと真面目に、参加してきた研修会でのことなどを話題にしてみましょう。

アットホームな雰囲気の中、明日への活力が生まれます。

職員室で情報交換

合同学年会、教科会、研修会へ積極的に参加を

近隣校との合同学年会・教科会で、仲間づくりを

授業や行事にかかわる情報交換はもちろんですが、参加者と知り合いになることも大切な目的です。困った時の相談や、悩みを打ち明け合うことのできる仲間づくりを進めるためにも、積極的に参加してみましょう。

研究会に参加して専門性の向上を

各地区には教科の内容や授業づくりについての研究会もあります。様々な年代の先生方から学ぶことは、教科等の専門性を高め、日々の授業を充実させることにつながります。

研修会に出るためには、クラスを自習にしたり、補充をお願いしたりしなければなりません。職員数が少ない小規模校では、なかなか難しいです。

教科によって、普段から連学年や姉妹学級で学ぶ機会を設定するのはどうでしょうか。多様な意見や考えを交流できる機会となるだけでなく、安心して研修に参加できることにもつながります。

指導主事や専門主事の訪問を活用して授業力アップを

教育事務所や総合教育センターは、学校のニーズに合わせた学校訪問、校内研修支援などの要請に応じます。指導主事や専門主事の訪問を活用して、学校やクラスを空けることなく、研修を受けることができます。教頭先生を通じて相談しましょう。

初めは教科一人だったので、とても不安でした。
しかし、指導主事の先生と６回に渡って授業づくりに取り組み、自信をもって生徒の前に立てるようになりました。
長野市立中条中学校　Ｙ教諭（初任者）

一人教科会の不安を乗り越えて

子どものとらえ方を学んだ職員室

三石（みついし）　啓介（けいすけ）　先生

【松本市立奈川中学校（学年単級　１学級３～12 名）に勤務】

これは少し意外に聞こえるかも知れませんが、私が奈川中に勤めていた時に特に大切にしていたことは、生徒一人一人と「一対一の時間」をつくることでした。さらに、職員室では、生徒のよさや指導、支援の方向について、その生徒の家庭環境や生育歴まで含め、生活全体を踏まえた話し合いが、日常的にされていました。その中で、生徒一人一人のとらえ方を豊かにすることの大切さを学ぶことができました。

小規模校・少人数学級における指導の充実
いい本が届いているよ。
読んでみようかな。手がかりが見つかるかも。
前の学校に比べるとずいぶん人数が少ないな・・・。
一人でやっていけるかな？教科も一人、学年も一人。困ったことがあったらだれに相談したらいいのかな？
①
②
③
④
小規模校・少人数学級だからこそできる教育があるんだな。子どもたち、先生方、保護者の方、地域の方と一緒にがんばろう！
不安に対するヒントが書いてあるぞ！
学習や活動のイメージがわいてくる！
Q&A
事例
体験談